

## ギャップファイラーの 実績と将来性

地デジ難視解消から災害対策、  
そして地域密着情報源へ

ギャップファイラーの知名度が上がってきた。日本のギャップファイラー普及で主導的役割を果たしてきたNHK アイテックは、これまでの取り組みが評価され、第22回電波功績賞、第37回放送文化基金賞を受賞した。最近では、評判を聞きつけた自治体や地下街などから、地域の地デジ難視解消、災害時のメディア、ワンセグ対応といった用途に導入したいという問い合わせが相次いでいる。地域の生活、安心・安全を支える放送システムとして期待が高まるギャップファイラーの実績、最新事例、将来性を営業の最前線に立つ山本勇・常務取締役営業本部長に聞いた。(編集部)

(取材・文：高瀬徹朗・放送アナリスト、写真：広瀬まり ほか)



### アナログ終了間際でも 引き合い途切れず

地上デジタル放送完全移行が間近に迫り、低コスト・短期間で無線による放送カバーエリアを確保できるギャップファイラーへの期待は高まるばかりだ。実際、NHK アイテックの導入事例は2010年7月末時点の167局所から309局所(11年6月現在)と約1年で

倍増。現在でも問い合わせや設置を検討する声は続いており、現在、工事中を含め7月24日以降も設置個所増加が見込まれる。

すでに設置したエリアにおける評価も上々だ。今年5月の完成記念式典で市長直々に感謝の意を示された千葉県いすみ市(約500世帯を19局でカバー)をはじめ、アナログ放送終了に伴う新たな難視の発生に不安を抱えていた地方自治体、地域住民にとってこれま

で通りテレビ放送を電波で受信できるギャップファイラーは大いに歓迎されている。国内最大規模・60局でカバーする和歌山県紀美野町などのように、感謝状を出して取り組みを評価するケースも複数あるという。

### 衛星セーフティネットの 地上系への移行対策に有効

7月24日を過ぎても地デジ難視聴対

## アナログ停波目前にギャップファイラー開局 千葉県いすみ市の「新たな難視地区」で

2011年7月24日のアナログ放送停波を目前に控え、NHK アイテックによる地デジ難視聴解消のギャップファイラーが続々開局している。



千葉県いすみ市大野・山田地区は、その全域が新たな難視地区となっていた。そこで、地元自治体であるいすみ市が地域住民の要望に応え、地デジ難視聴対策事業の整備をギャップファイラーで行った。5月30日、総務省関東総合通信局放送部長、いすみ市長、いすみ市議会議員など関係者が集まり、ギャップファイラー整備事業の完成記念式典が執り行われた。いすみ市の太田洋市長は式典の挨拶で、「テレビはお年寄にとって唯一の娯楽。『アナログ放送が終わるとテレビが全く見られなくなる。市でなんとかしてほしい』と直接電話があった。この切実な訴えに応えるため、この整備事業を決断した」と語った。

いすみ市の大野・山田地区整備事業は、約500世帯を19局のギャップファイラーで

カバーするものである。無線によるギャップファイラー方式は、ワンセグ受信が可能だ。この整備工事期間中に3月11日の東日本大震災があった。工事を一時中断し、完成も当初予定から延期することになったが、この地域は今回のギャップファイラー整備により、災害などの情報をワンセグで入手することが可能となった。アナログからデジタルに変わる本来のメリットをこのギャップファイラーで100%活かすことができていると言えるだろう。

このいすみ市はこの地区以外にも多くの新たな難視地区を抱えている。市長はアナログ停波の7月24日以降も地域の要望に応え、地デジ難視聴対策事業に取り組みたいと語っている。